

災害への備えとは

教頭 渡部眞一

各ご家庭におかれましては北海道胆振地方中東部地震による被害はなかったでしょうか。このたびの地震によりお亡くなりになった方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被害を受けた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

地震発生から1週間が過ぎましたが、しばしば余震があり不安が消えない状況です。平成28年の熊本地震では、最初の震度7の揺れから2日目に、震度6を越える大きな揺れで被害を拡大しました。今回の地震でも余震があるのではないかと考える人は多く、地震後販売を再開した量販店からは携帯用電灯・電池・カセットガスの製品とボンベはすぐに姿を消しました。停電は復旧していても、道内の誰もが、不安の中「継続的に注意が必要である」と感じながら生活している証拠です。緊急の事態への備えとして、いざという時のことを常日頃から考えておく必要があります。想定外を想像するのは容易なことではありませんが、今回の震災はそれを考えるきっかけとなる出来事であったと思います。

学校では、震災を受けてすみやかに、各学部・部門ごと全職員で、今回の地震への対応と課題を整理し、改善案を出し合いまとめました。当面は余震への対応念頭に、すぐに組むべき事柄を検討しました。また、はPTAからも震災に関する調査のお願いが配布される予定です。ご家庭で経験された震災の困難さについて、ご本人・保護者の視点からお伝え頂けましたらありがたいです。今後防災について、学校とご家庭の連携をさら強める必要があると考えます。どうぞ御協力をお願いいたします。

特に緊急性が高く、早急に対応しなければならない課題として、「帰宅困難時の対応」があります。被災時に「児童生徒が学校に取り残された」という状況を想定し、数日間をしのぐための手立てを確保することです。まずは「服薬」や「医療的ケア」に係るバッテリーなどの物品等、本人に必要なものについて、学校に予備として保管があるかなど。今一度ご確認をお願いします。あわせて可能な限り一斉メール配信システムへの登録に御協力をお願いいたします。

今回は地震発生の直前に、北海道に台風が襲来しておりました。自然災害はいつ襲ってくるか分からないのが常です。災難が続き、誰もが危機意識を持っているこの機会に、防災の体制を整えなければならないと考えます。

地震発生時、寄宿舍には職員も児童生徒もあり、地震・停電等への対応はまず宿直していた寄宿舍指導員により行われました。暗闇の中にもかかわらず、迅速で落ち着いた対応により児童生徒を守りました。お迎えが来て安堵する子どもの表情を見て、この事態に職員だけでなく、児童生徒本人もそれぞれに頑張っていたことを、忘れてはならないと感じました。

また、本校の児童生徒が大事に至らなかったことに対しまして、保護者の皆様、その他関わった皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。